

30代 女性 H26.9.29～H27.2.9 入院

免疫抑制剤+最強レベルのステロイド併用でも菌が立たず、現代医療ではコントロールできない最重症のアトピー性皮膚炎をバチルス入浴ケア（BSC）のみで完全にコントロール。

幼児期から四肢屈曲部にアトピー性皮膚炎が生じ、ベトネベート等（very strong）の塗布により高校までは治まっていた。しかし、徐々にステロイドの効果が低下。30歳からはステロイドの使用や抗アレルギー薬を服用するも改善しなくなり、入院4年前からダイアコート デルモベート(strongest)使用。3年前からはステロイド内服（セレスタミン）を併用。2年前には大学病院での入院も行い、最強（strongest）ステロイド外用の全身塗布で一旦は改善したがすぐに再発。痒みが強く痛みになくなっていった。プロトピックも併用し始めたが効果なく、免疫抑制剤シクロスポリン 50mg 4C/日の内服の併用が始まった。

当院入院前までシクロスポリン 50mg 3C/日 キンダーベートを顔、デルモベート+マイザーを体幹四肢に塗布。それでもコントロールは十分ではなく、全身の痒み・炎症・擦過傷・色素沈着・まだら紅斑・赤みがある状態だった。

現代医療での限界状態になり、インターネットでHPを知った当院をすぎるような気持ちで受診。当院ではステロイドはまったく使わないので、激しいリバウンドを覚悟して頂き、入院期間が長期化する可能性を了解して頂いた上で入院。

入院時はまだ薬物の効果があったが、次第に免疫抑制剤やステロイドの効果が切れると、全身の浮腫み・発熱・悪寒・激しい痒みと滲出液が生じるなど、全身に激しいリバウンド皮膚炎が生じた。顔が腫れ上り、ベッドから起き上がれない状態になったが、気力を振り絞って短時間でもバチルス入浴ケア（BSC）を続けた。体中の細胞が薬物の影響から解放されて、悲鳴を上げながら自然状態に戻ろうとして反応した。

10/10 と 12/27 の POEM がないのは、アンケートに答えている精神的肉体的余裕がなかったからだ。

入院後3ヶ月間は症状に波があり、悪化と改善を繰り返したが、さすがの全身の強い炎症も3ヶ月が経過した頃から急速に改善。ドラッグフリーで普通肌に変更した。当院の食事でも体重もスリムに変身。現在退院して1年経過。自宅でバチルス入浴ケアのみを行っているが、POEMは0点に近くほとんど正常皮膚を維持できている。

	基準値	2014/10/4	10/10	10/29	11/29	12/27	2015/1/31	2015/2/9
TARC	450 以下	12980	19841	*	7121	10982	1059	695
LDH	120～245	389	372	540	386	349	188	166
IgE	170 以下	61	61	61	86	64	31	35
好酸球	7%以下	5%	15.3%	19.0%	15.8%	19.3%	5.5%	3.4%
POEM(自覚症)	最重症者 20～28	28	*	23	19	*	11	2

シクロスポリン プロトピック 最強ステロイド併用でも歯が立たず、現代医療ではコントロールできない最重症のアトピー性皮膚炎を、バチルス入浴ケア（BSC）のみで完全にコントロールできた。

自然の力をうまく使うと、本当は薬はほとんど必要ないのかもしれない。

2014/9/29

免疫抑制剤服用とステロイド外用の効果が残存している状態



2014/10

リバウンド時



2105/2/9

退院時



2014/9/29

免疫抑制剤
服用中



2014/10~12

リバウンド時



2105/2/9

退院時

